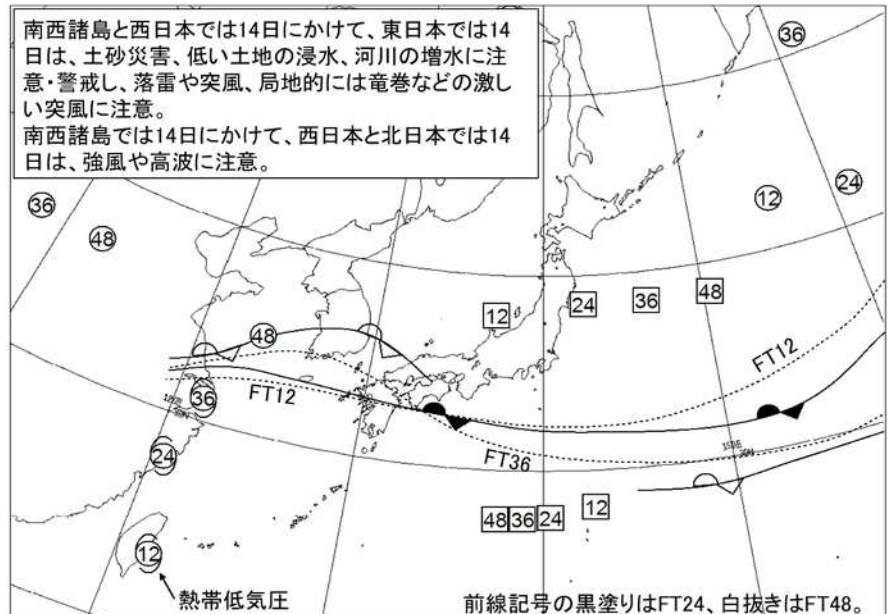


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5580m付近のトラフに対応する低気圧が千島近海を東進。日本海西部の高気圧との間で気圧の傾きが大きく、やや強い風の吹いている所がある。
- ② 500hPa 5820～5880mの強風軸に対応する前線が、華中～九州～日本の東へのびている。前線近傍の東シナ海や九州北部では、激しい雨を解析、雷を検知。
- ③ 台風第1号が南シナ海をゆっくり西北西進。また、熱帯低気圧が、バシー海峡付近を北北西進。熱帯低気圧の近傍では下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定。



主要じょう乱解説図

先島諸島周辺では激しい雨を解析、雷を検知、メソサイクロンを検出。

- ④ ③の熱帯低気圧と南鳥島近海から日本の南に張り出した高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、南西諸島では波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧が13日は北日本付近を通過、14日は日本の東を東へ移動する。また、14日は、500hPa 5580m付近のトラフに対応する低気圧が沿海州付近に進み、低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では14日は、強風や高波に注意。
- ② 1項②の前線は西日本をゆっくり北上して、13日は朝鮮半島付近～西日本～日本の東へのびる。14日は、高気圧が日本の南に停滞し、日本の南の前線は不明瞭となるが、華中から朝鮮半島を通過して西日本にのびる前線が停滞する。また、1項③の熱帯低気圧は、12日夜にかけて台湾付近に、13日は華中付近に進み、14日朝までに前線に取り込まれ、前線上の黄海で低気圧となる。前線や熱帯低気圧の近傍では、これらに向かって流れ込む下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島と西日本では14日にかけて、東日本では14日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。西日本ではこれまでの大雨の影響で地盤が緩んでいる所があることに留意。
- ③ 2項②の前線や熱帯低気圧の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き波が高くなりしける所がある。南西諸島では14日にかけて、西日本では14日は、強風や高波に注意。
- ④ 1項③の台風第1号は、12日は南シナ海を北西進、13日はトンキン湾を北上、14日は華南に進む。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時から24時間)：沖縄150mm。② 波浪(明日まで)：沖縄4m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。